

第5回「激動の世界情勢を聖書から読み解く」勉強会

～ 聖書預言と新型コロナウイルス ～

1. 感染症は、単なる医学的脅威ではない

世の終わりについて預言したイエス:「それから、イエスは彼らに言われた。「民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり、大きな地震があり、方々に飢饉や疫病が起こり、恐ろしい光景や天からの大きなしるしが現れます。(ルカ 21 章 10-11 節)」

→ 戦争、地震、飢饉、そして天変地異と共に疫病を語った。国家危機、安全保障に関わること。



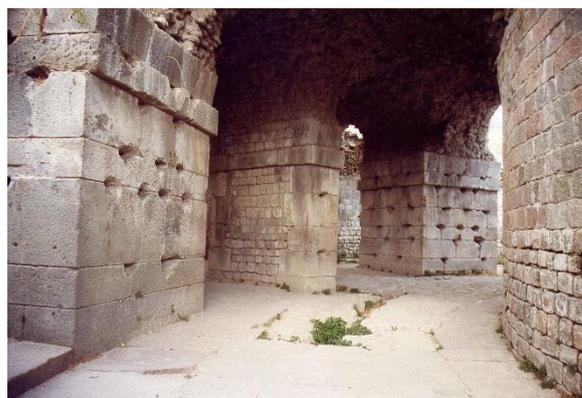
2. 「疫病」を機に、拡大した初代教会

1) 医学の始まり、ペルガモンのガレノス

- ギリシア・ローマの神々が祭られる町で、アスクレピオンという医療と宗教儀式的場所
- アスクレピオスは医療の神で、蛇の形。→ 現代の WHO の紋章
- ガレノスが医学の確立

2) 医学を実践する制度「病院」

- ローマによる迫害下の初代教会、しかし拡大
 - 「キプリアヌスの疫病」(c.200-258)※キプリアヌスは、カルタゴの司教
 - ◇ 「絶え間ない嘔吐に腸は震え、目には感染した血液の炎が燃え、場合によっては足あるいは手足の一部が腐って落ちる」



- 天然痘ではないかと言われている。ローマだけで一日に五千人死亡。
- 当時、世界を支配したローマ「パクス・ローマーナ」。ローマ街道によって、軍事、交通の移動が非常に容易になっていた。ところが、そこに疫病が蔓延、一気に広がる。
- 当時、ローマは蛮族の侵入、政治的混乱が起こっていた。
- 疫病は崇りのように捉えられ、高い地位の人や経済力のある人はローマを逃げる
- ところが、キリスト者らが、迫害の対象になっていたにも関わらず、感染者を看病する。信者、不信者に関わりなく。



◇ 自らも感染して死ぬかもしれないが、キリスト者には「復活信仰」があった。キリストが人々の罪のために十字架の上で死なれたが、三日目によみがえる。自分たちもよみがえると信じていた。

◇ 半殺しになっている男を看病した、「良きサマリア人」の隣人愛

◇ キリスト者のいるところは、死亡率が下がった。

- 武漢にある地下教会が、マスクや防護服の配布。海外の教会からの援助
- 新型肺炎を告発し、全中国を揺るがした李文亮医師は、死の直前、詩を書き、聖書を引用し、死後の復活を語る。

- 終息し、ローマに戻ってみると、そこで生存者たちはキリスト者になっていた。
- キリスト教に修道院運動が起こり、旅人をもてなす「ホスピス」が、hospital の原型。
 - 原因追及ではなく、傷ついている人に寄り添い、助け、慰める。
- ガレノスが確立した医学に、修道院の制度が合わさって、近現代の病院制度となる。

3. 疫病によって変わる世界の構造

- 中世ヨーロッパのペスト(黒死病)14世紀
 - 8千万人から1億人が死に、ヨーロッパは人口の70-80%が死亡した
 - 中国大陸で発生し、中国の人口が半減。当時はモンゴル帝国の権力争い。
 - 中央アジアからイタリアのシチリア島上陸、輸入の毛皮のノミが媒介。
 - ヴェネツィアで海上検疫、40日間だったので、イタリア語 quaranta から quarantine に。
- イギリスは、「言語」が変わってしまった。
 - 四百万人の3分の1が死ぬ。
 - フランス語や聖職者のラテン語話者の人口が減り、英語が生き昇る。
- 大きな反ユダヤ主義による虐殺

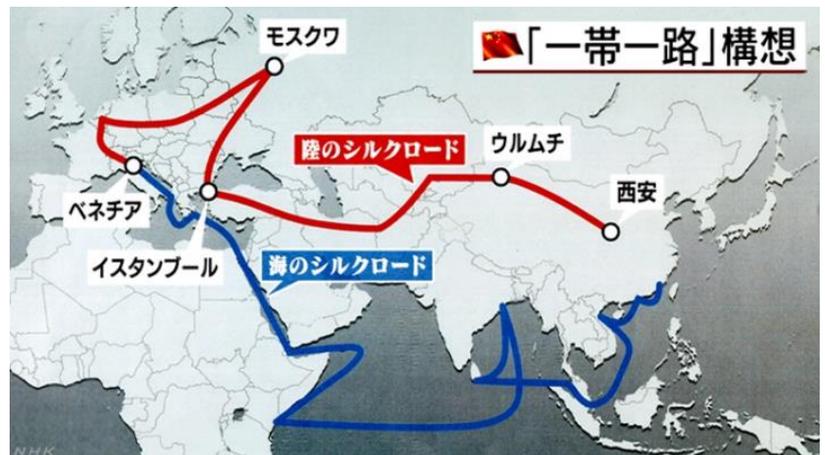
- ユダヤ人の死亡率が低かった。
- 手の洗いの儀式があり、レビ記の「清めの儀式」から。
- レビ記には、らい病人(重い皮膚病)を隔離する規定ある。
- スケープゴートにされ、「ユダヤ人が井戸に毒を入れた」とし、ユダヤ人を虐殺。



- スペイン風邪 1918-1919年
 - 感染者5億人、死者5千万から1億人
 - 病原体は、A型インフルエンザウイルス
 - スペインが初出だが、流行源はアメリカ合衆国
 - 第一次世界大戦の間であり、世界で情報が統制されていたため、被害は広がった。
 - 大流行により多くの死者が出て、世界大戦の終結が早まった。

4. 中国の「一帯一路構想」の頓挫

- 世界の大国として覇権を広げてきた国々
 - 「パクス・ロマーナ」「パクス・ブリタニカ」「パクス・アメリカーナ」
 - 「**パクス・シニカ**」中国による世界秩序と平和
- 自由民主主義国の弱体
 - アメリカのトランプ現象、イギリスのEU脱退、難民問題を抱える西欧
 - 独裁体質の国々が経済発展 — ロシアと中国
- 中国の一帯一路構想
 - 中東と東亜を結ぶシルクロードを再現。
 - 経済覇権：諸外国の極度の依存、あるいは確執
 - 軍事覇権：北アフリカのジプチに中国海軍港を建設
- 日本と中国
 - インド太平洋構想によって、一帯一路を牽制
 - インバウンドや習近平主席を国賓として招くなど、実質的にパクス・シニカに呑み込まれている。
 - 武漢は人口1千万以上を抱える巨大都市、東西南北に新幹線が走る交通の要衝
 - SARSの時に比べ、移動人数が半端なく多かった。インバウンドにより数多くの武漢からの人を、中国政府が封鎖するまで国内に入れた。



5. 世界の文明は、イスラエルに通ずる

- エジプト文明とメソポタミア文明の中間に位置する
- キリスト教がイスラエル発、イスラム教はユダヤ・キリスト教から派生
- 中国文明は、シルクロードでイスラエルにまでつながった
- プールの底が、排水口に向かってなだらかに低くなるように、世界は、少しずつイスラエルに向かうように動かされている。

黙示録 16 章 12-16 節:

「12 第六の御使いが鉢の中身を大河ユーフラテスに注いだ。すると、その水は涸れてしまい、日の昇る方から来る王たちの道を備えることになった。13 また、私は竜の口と獣の口、また偽預言者の口から、蛙のような三つの汚れた霊が出て来るのを見た。14 これらは、しるしを行う悪霊どもの霊であり、全世界の王たちのところに出て行く。全能者なる神の大いなる日の戦いに備えて、彼らを召集するためである。15 ——見よ、わたしは盗人のように来る。裸で歩き回って、恥ずかしい姿を人々に見られることのないように、目を覚まして衣を着ている者は幸いである——16 こうして汚れた霊どもは、ヘブル語でハルマゲドンと呼ばれる場所に王たちを集めた。」

● ハルマゲドン＝メギドの山

- メギドは、イスラエルの東西に走る、イズレエル平原の入り口にある要塞都市



- メギドは古代から近代まで戦争が繰り返された、二文明の間にあり、地政学的に衝突が起こる
- 世界最終戦争、その後の、キリストの再来により、神の国が立てられる。